



2019年7月号

「時効」の改正に影響を受けるもの

飲み屋のツケは1年で時効、でしたが…

「女将、勘定はつけておいてね」

なじみ客として、こんな言葉を発せられたら格好良いし、その代金も1年間知らんぷりをしていれば、時効を主張できます。ただし、もう少しの間だけです（別に勧めているわけではありません）。

時効（消滅時効）は原則的には、権利を行使できるときから10年（会社間などの取引は5年）とされていますが、飲食店は1年、小売店では2年、医科診療では3年、月払い家賃などは5年などいろいろな短期特例があります。

2020年4月以降は、これらがすべて5年とされることになりました。複雑な現在の時効制度に比較すると、スッキリした民法の規定になります。

もう少し正確にいうと、現行の権利を行使できるときから10年の規定に、「権利を行使することが出来ることを知ったときから5年」が加わり、どちらか短い方になったのです。多くの場合は、権利行使できる時には、権利行使が出来ることを知っているでしょうから、単純に時効は5年と考えて良いと思います（生命、身体の侵害に関する損害賠償請求権については、被害者保護の観点からもう少し長い）。

有給休暇 100日？！

今回の時効制度改正は、「時効5年」と単純化したのはよいのですが、労働債権との関係が問題になっています。



たとえば有給休暇制度です。「有給休暇は繰り越しを入れて最高40日」となります。この40日は、労働基準法で最高年間20日の有給休暇を与えることが決められており、同じ労働基準法で、労働債権の時効は2年（退職金については5年）とされているので、20日×2年＝40日となっているわけです。もっとも、毎年5日の有給休暇取得が義務化されていますから、まるまる繰り越しのケースは少な

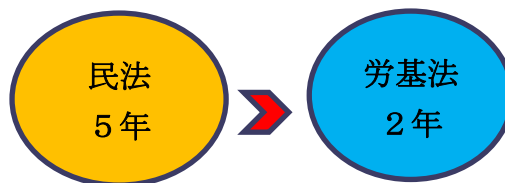
くはなるでしょうが…。

この休暇繰り越しの制度は、もともと民法で使用人に対する給料の時効は1年とされていたものを、労働者保護のために労働基準法で2年という特別を作ったことが、この計算の根拠になっています。

そうなってくると、今回の民法改正で、時効が5年とされてどうなるかです。労働基準法の2年も民法にあわせて5年となったら大変です。最大20日×5年＝100日の有給休暇になります。土、日、祝日等も加えると約5ヶ月の休暇にもなりそうです。

結論は当分先か

同様の問題は最近マスコミでも取り上げられる「未払い残業」の問題にも影響します。現行では2年間の未払い金問題としてとりあげられていますが、これが有給休暇と同じように5年となる可能性もあるのです。



これらの時効が5年とするかどうかの議論が進められているようですが、すべての債権の時効が5年となったのだから、これらも5年とすべきという主張がある一方で、労働という特殊性を考え現状維持を支持する声もあり、まだ方向は見えていないようです。しかし、大きな問題であり、経営サイドから見ると非常に気になるところでもあります。 (了)

(文章 石島洋一)

★ ☆ ★ ☆

ノベルティの配布は終了しました。



大阪・太陽の塔



(文章:新妻 舞)

十数年ぶりに大阪へ行くことになり、前回訪れた際に行けずに悔いていた**太陽の塔**へ行って参りました。



☆太陽の塔とは☆

ご存じの方がほとんどでしょうが…一応(笑)
太陽の塔はいわずと知れた**大阪のシンボル**！
1970年に開催された日本万国博覧会のシンボルゾーンにテーマ館の一部として芸術家の**岡本太郎氏**が制作した芸術作品であり建造物です。万博記念公園にあり、円筒形の胴に2本の腕と3つの特徴的な顔面をもつ高さ約70mの巨大な塔です。



☆太陽の塔の内部への入館方法☆

太陽の塔はずっと内部は非公開となっていたのですが、2018年から常時一般公開されるようになりました！**完全予約制**で当日券は販売していないとのことで、せっかく行くなれば内部にも行かなければ！と思い予約することにしました。直前の申し込みになってしまい土日は予約が取れない日もあったり都合の良い時間では予約が取れなかったり…なんとか行ける日時で予約が出来て、ホッと一安心。120 日前から予約が出来るので行く日を決めたら早めに予約を取ることをおすすめします！

予約出来たら当日は受付窓口で予約完了後に送られてくる **QR コード**を印刷して持参するか携帯に画面表示して入館します。こんなところにもIT化の波が来ていました。

☆いざ、万博記念公園へ☆

東京駅から新幹線に乗って新大阪駅へ、新幹線内でたっぶり寝て体力を温存し、新大阪から地下鉄とモノレールに乗って**約3時間半**で万博記念公園駅にやっと到着！

駅から出てちょっとすると太陽の塔がひょっこりと顔をだしているではありませんか！早々にちょっとテンションが上がりました🌟

太陽の塔の存在で距離感がおかしくなり、「近く感じたけど結構歩いたかも？」と錯覚に陥りながらも、万博記念公園の入口に到着。入館料を払って中に入ってすぐ、真正面に**大きな原っぱ**と**太陽の塔**という、



これぞ写真スポットな場があり、みんなそこで思い思いの写真を撮っていました。私も色々な角度からこれでもかというくらい写真を撮ってしまいました。

万博記念公園の中には、太陽の塔だけでなく巨大立体アスレチック迷路やサイクルポート、日本庭園や自然文化園にレストランもあり、夏にはウォーターパークも登場するようで、園内図を見て思った以上に**広くて大きな公園**で、これは今日中に園内を全部回るのは体力的にも時間的にも無理だな…と思い知り、無理しない程度に滞在しようと早々に思いました。



☆太陽の塔内部へ☆

太陽の塔内部の入館予約時間に受付をすませ、まず「**地底の太陽ゾーン**」という展示スペースに。このスペースは地底の太陽というオブジェに**プロジェクションマッピング**が投影され独特な空間が出来ており、ワクワク感が増して気分を盛り立ててくれました。このスペースを存分に楽しみ、いよいよ「**生命の樹**」へ！

「**生命の樹**」は高さ41mの巨大な造形で、「**生命の樹**」の周りを階段で上りながら解説員の方の説明を聞きながら進んでいきます。残念ながらこの空間は1階部分での撮影以外、**撮影禁止**となっています。1階から見上げる「**生命の樹**」は圧巻の迫力でした！でもこの写真だけじゃ伝わらないですね…。残念…。

「**生命の樹**」は地球上の**生命の誕生から人類の進化の過程**が表現されたもので、一部1970年当時のまま劣化した状態で残されているものもあり、時間の経過を感じ感慨深い気持ちになりました。上りきった後には太陽の塔の両腕の内部も見ることができたのですが、鉄の骨組みが組まれ**宇宙空間**のようで、これもまた**神秘的**でこれが1970年からあったということに驚きでした。帰りも階段で帰ったのですが、途中途中に1970年当時の写真が飾ってあったりして飽きさせない工夫がされており、最後までたつぷりと堪能しました。上りも下りも階段が意外と長く、良い運動になりました。



今回は残念ながら夜までいかなかったのですが、夜になると太陽の塔の**目が光る**そうなので、次回は夜まで滞在し、ちょっと不気味そうなその姿を是非見たいなと思いました。

東京オリンピック後の2025年には大阪市で国際博覧会(万博)の開催が決定しています。皆さんも2025年の万博開催の前に一度1970年の万博に思いをはせて万博記念公園へ遊びに行ってみてはいかがでしょうか。